

七番日記

小林一茶著・文政元年（一八一八）年八月の項。

八月

一晴

○よい世とや虫が鈴ふり鳶がまふ

一しめり人ハ祈るぞきりぐす

二晴

○一葉ヅゝつひニくりく坊主哉

三晴 同行三人荒安大久保戸隠山法

一しめり有間の山の夕立ハ

光院丁善法院泊

別（て）涼しき月のかげ哉

四晴 飯綱山上不動堂粟飯掘

虫どもハ身をしる雨としらざるや

三好ニ入

五晴

戸隠山

六晴 長沼通アサノニ入

鬼の寝た穴よ朝から秋の暮

未刻雷雨夜不止 六月十六日

春庵崎や龜の子笹になく蛙

大雨ヨリ五十日目也ト云々

床の間の杖よわらじよ秋の暮れ

註 国会図書館デジタルコレクション「一茶叢書 第4編 下巻」古今書院刊

127 コト目へ128 コト目